

平成23年12月19日
人と自然の共生懇談会

「地域共同管理空間（ローカル・コモنز）の
包括的再生の技術開発とその理論化」
加茂湖水系再生研究所（カモケン）
からの提案

桑子敏雄

東京工業大学大学院教授

ローカル・コモنز再生研究プロジェクト
研究代表者

カモケンによる佐渡島加茂湖こごめのいり市民工事 2011.11.16





W-bridge の支援によるカモケン(プロフェッショナル市民組織)の市民工事

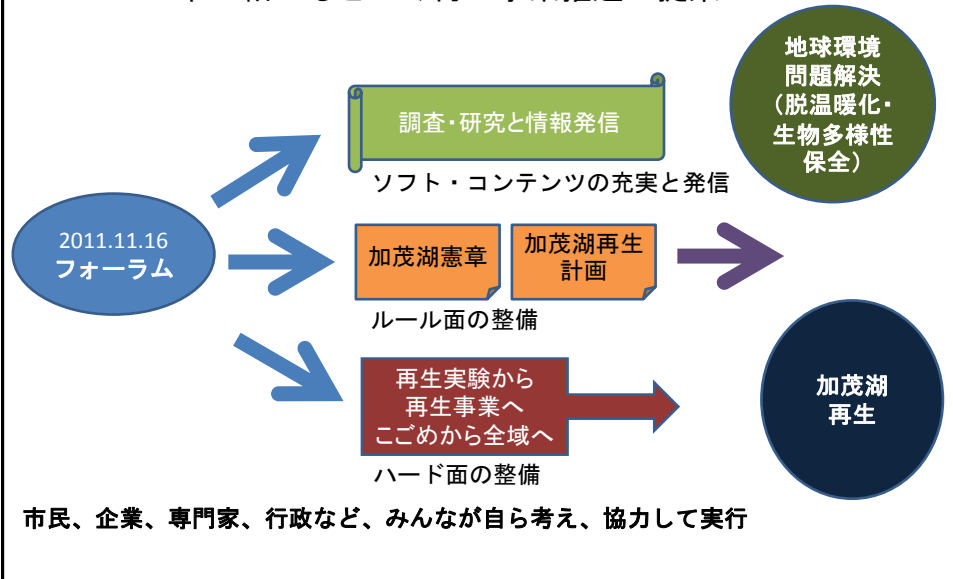


佐渡島加茂湖憲章(案)

1. 加茂湖は佐渡の宝物であることをお互いに認め合います
2. 加茂湖の自然と地域の歴史を学ぶとともに、地球環境全体のにつながるように加茂湖の将来の姿を描きます
3. 加茂湖の再生・保全是、加茂湖に注ぎ、出て行く水の全体と小さな流れにも配慮します
4. 加茂湖地域の動植物を詳しく調査研究して、再生・保全に活かします
5. 加茂湖の再生は小さなことから実行し、効果を確認しながらと広がっていきます
6. 加茂湖再生とともに加茂湖を守るためのルールづくりも・緒す
7. 加茂湖の再生は、こどもから高齢者にいたるまで、各・代を進めます
8. 豊かな葦原が広がる加茂湖の再生・維持管理は、市民、企業専門家、行政などみんなが自ら考え、協力して実行し、加茂湖を愛する者を守ります

加茂湖再生への行程と戦略

3本の軸にもとづく再生事業推進の提案



3. 11から

・日本社会は「想定外」の出来事で崩壊するリスクを負っている原発のような。地震か津波で原発の配管が破損したが、原発災害で日本社会の配管に亀裂が入った。

・国民が十分な情報を得て自己決定・合意形成する精神的・制度的基盤ができていない。情報がコモンスとして認識されていない。「やらせ」「組織的動員」から「情報すっぽんぽん」(国交省)の思想への転換が必要。

・企業のCSRにおいて、ガバナンスやコンプライアンスについて大きな誤解がある(ガバナンスを内部統制、コンプライアンスを守秘義務とのみ理解)、あるいは、汚染者責任という常識的環境倫理・企業倫理(バルディーズ原則)についても自覚がない。(核汚染物質は無主物だとの認識。)

・ [Valdez]環境に対する企業倫理の原則。(1)生物圏の保護、(2)天然資源の持続可能な利用、(3)廃棄物処理と減量、(4)エネルギーの賢明な使用、(5)リスクの削減、(6)安全な製品・サービスの販売、(7)損害賠償、(8)情報公開、(9)環境問題の専門家の任命、(10)環境監査。[1989年にアラスカで原油流出事故を起こしたタンカーの名に由来]

・「汚染された山河は、負のコモンズである」との認識が共有されていない。

・復興計画実現への合意形成プロセス構築の基盤は脆弱である。タテワリ、ナワバリのもとで復興計画、復興事業が進められている。